

記入日（西暦）2024 年 1 月 26 日

一般社団法人日本医療薬学会 学術委員会委員長 殿

医療薬学学術小委員会 研究活動報告書（継続）

1. 小委員会名、研究テーマ

小委員会名	2022 年度医療薬学学術第 3 小委員会
研究テーマ	症例検討による省察の推進と教育への展開を目指した調査研究

2. 小委員会の委員長、構成委員

委員長	フリガナ	ヤノ リョウイチ
	氏名	矢野 良一
	所属施設の名称 (正式名称)	大阪医科薬科大学 薬学部

構成委員	氏名	所属	次年度
	荒木 隆一	市立敦賀病院 医療支援部	継続
	板井 進悟	金沢大学附属病院 薬剤部	継続
	上塚 朋子	福井県済生会病院 薬剤部	継続
	長谷川 裕矢	松波総合病院 薬剤部	継続
	間瀬 広樹	国立病院機構榊原病院 薬剤科	継続
	宮脇 未来	日本医療研究開発機構 シーズ開発・研究基盤事業部	継続
	矢吹 拓	国立病院機構栃木医療センター	継続

注) 「次年度」には、継続、新規(次年度から追加)、退任(今年度を以て退任)のいずれかを記入すること。

3. 研究の目的

症例検討は自ら経験した症例の省察の場として、あるいは個々の貴重な経験を広く共有する場として、薬剤師にとって効果的な学習・教育の場となり得る。しかし、薬剤師による症例検討は臨床医のそれと比較して、実践され定着しているとは言い難い。すなわち、経験した症例を振り返り学ぶことや教育に活かすことが我が国の薬剤師には根付いていない。この問題を解決するために、薬剤師が症例検討会をどのようなものと認識し、症例検討会に何を期待しているのか、また、実践されている症例検討会はどのようなものなのか、全国的な調査により実態を明らかにし、課題を同定して解決策を提案することが本研究の目的である。

注) 枠の大きさは必要に応じて修正し、詳細に記載すること。

4-1. 研究活動報告（これまでの研究成果と達成度）

1. 今年度の研究活動の内容及び研究成果

本研究では、我が国の薬剤師による症例検討会の実態、ならびに症例検討会に対する薬剤師の認識を明らかにするため、日本医療薬学会の会員が所属する医療施設、ならびに会員個人を対象としたアンケート調査、実地調査、インタビュー調査を実施予定である。

今年度の活動状況は次のとおりである。

① 会議の開催

今年度はアンケートデータの解析に関する方針の打ち合わせと、日本医療薬学会年会における研究成果公表の打ち合わせを主な議題とし、ウェブ会議を1回開催した。それ以外に、委員間で電子メールでの意見交換を必要に応じて行った。

② 医療施設対象アンケート調査

日本医療薬学会の会員が所属する医療施設を対象としてアンケート調査を実施した。アンケートの実施に際し、日本医療薬学会ホームページに協力依頼を掲載し、約1700施設に文書でアンケートへの協力依頼を発送した。回答はオンラインで回収した。最終的に900件以上の回答を入手し、現在データのクリーニングが完了し解析を進めている。

③ 文献調査(スコーピングレビュー)

国内外で医療関連職における症例検討を取り扱った研究論文を網羅的に収集してレビューを行った。薬剤師のみならず、医療従事者による症例検討会の実態や効果的な運営方法について検討した研究は乏しいことが明らかとなった。この成果は板井委員が中心となり日本医療薬学会年会(仙台)にて一般演題(ポスター)として発表した(研究業績1)。

2. 当初立案した研究計画に対する達成度

研究計画の進捗は、初年度に研究倫理審査の受審手続きに時間を要したこと、今年度にアンケート調査の実施に関連して小委員会活動を学会ホームページに掲載するための新たな手続きが発生したこと、を主な理由に、計画当初の想定より半年程度の遅れがでている。一方で、今年度実施したアンケート調査では想定以上の高い回収率でデータを得ることができており、次年度中に学会並びに論文として有意義な成果を公表できる予定である。研究計画の達成度としては全体の50%程度となっている。

3. 次年度に向けた研究課題

- ・これまでの研究成果を学会発表、ならびに論文として公表すること
- ・アンケート調査の結果を活用し、症例検討会の実地観察やインタビュー調査に結び付けること
- ・研究開始当初から計画されている、日本医療薬学会の会員個人向けアンケート調査を実施すること
- ・理事会より要望があった、薬局対象の実態調査を追加で実施すること
- ・本委員会の研究成果を総括し、広く日本の薬剤師が活用できる形の資料として公表すること

4. その他

注) 枠の大きさは必要に応じて修正し、各項目について詳細に記載すること。

4-2. 研究業績 (学会発表、論文等)

1. 板井進吾、荒木隆一、上塚朋子、長谷川裕矢、間瀬広樹、宮脇未来、矢吹拓、矢野良一. 医療従事者による症例検討会に関するスコーピングレビュー. 第33回日本医療薬学会年会(仙台) 一般演題(ポスター発表).

注) 本研究活動の成果に関する学会発表や論文情報を記載すること。枠の大きさは必要に応じて修正し、各項目について詳細に記載すること。

5. 次年度の活動計画及び到達目標

1. 学術小委員会としての研究活動期間

2024 年 4 月 1 日 ~ 2025 年 3 月 31 日まで 通算 3 年間の 3 年目

- ・ 会議の開催予定回数 3 回

2. 次年度の活動計画及び到達目標

(前年度の活動計画又は到達目標を変更する場合は、その理由を記載)

2024 年度は、まず、文献調査(スコーピングレビュー)について論文執筆、投稿を進める。

また、前年度に引き続き医療施設対象アンケート調査の解析を進め、当年度の日本医療薬学会年会に一般演題として応募すると同時に、学会発表と同時の論文化に向けて準備を進める。

次に研究開始当初から計画にある、日本医療薬学会の会員個人を対象としたアンケート調査を実施する。この個人対象アンケート調査では、症例検討会に対するイメージ、満足度、現状への不満や要望を収集し、ニーズを明確にし、症例検討会を企画運営する際の参考となる資料の提示を目標にする。さらに、昨年度の活動の中で理事会から要望を頂き、病院だけではなく保険薬局における症例検討会の実態についても調査を行うことになった。これらについては、2023 年度から準備を進めており、病院対象のアンケート調査の一部を対象者にあった内容に修正すること、ホームページや電子メールを利用して調査協力依頼を行い、オンラインで回答を収集することを方針として決定しており、これらの準備が整い次第、2024 年度早々に調査を実施し、当年度中に学会発表と論文化を進める計画である。

研究計画当初の実施時期からの遅れはあるが、アンケート調査の回答を参考に実地調査の対象施設を選定し、2024 年度前半を中心に、複数の施設や個人を対象にインタビューや実地観察による詳細調査を実施する。これら質的研究の手法により解析し、薬剤師が症例検討に期待することや現状に抱いている不満を明らかにすると共に、実際に開催されている症例検討会の特徴や課題を整理する。

研究の最終年度に当たるため、上記の計画を着実に進めるとともに、成果を日本医療薬学会の会員ならびに広く社会に公表するための準備も合わせて進めていく計画である。その一環として、2025 年度の日本医療薬学会年会において本小委員会の活動成果を踏まえた公募シンポジウムを実施できるよう、シンポジウムの企画と応募を行う。また、症例検討会を活性化するための運営のコツ、効果的な症例検討のためのフォーマット作成など、本研究で得られた様々な知見を分かりやすくまとめ、我が国で薬剤師による症例検討会が定着・活性化するための参考資料として提供していきたい。

注) 枠の大きさは必要に応じて修正し、各項目について詳細に記載すること。

6. 共同研究、他学会・団体からの支援（COI 申告を含む）

論文投稿料、掲載料など、本研究に必要な研究費の一部を、小委員会委員長の矢野が所属する大阪医科大学薬学部薬学部の研究費から支出する予定である。

注) 提出済みの研究計画書又は研究活動報告書の記載事項から変更がある場合にのみ記載すること。

7. 倫理指針、科学者の行動規範、個人情報保護法等への適合状況（倫理審査等の受審及び承認取得状況を含む）

変更なし

注) 前回提出済みの研究計画書又は研究活動報告書の記載事項から変更がある場合にのみ記載すること。

8. 研究費支出計画

次年度の研究費支出希望額 67,347 円

費目	過年度	次年度	全期間
(1)データベースの利用料	0	0	0
(2)アンケート調査費	279,905	0	279,905
(3)会場使用料、映像・音響等機材利用料、装飾・案内看板等作成費	0	0	0
(4)機器等のリース、レンタル費	0	0	0
(5)印刷、製本費	0	0	0
(6)通信、運搬費用	0	0	0
(7)講師謝金、旅費等(本学会旅費、謝金規程の範囲内に限る)	0	0	0
(8)運営スタッフ雇用費	0	0	0
(9)支払手数料	550	0	550
(10)消耗品費	0	0	0
(11)業務委託費	0	0	0
(12)小委員会活動に直接関連する学会・研修会等への参加費およびそのための旅費	0	67,347	67,347
(13)倫理審査の受審料	0	0	0
(14)論文投稿料、掲載料	0	0	0
(15)雑費	0	0	0
合計	280,455	67,347	347,802

注) 過年度の支出額(過去に支出した金額)、次年度(単年度)及び全期間の支出見込みを記載すること。

9. 次年度支出計画の内訳

2024 年度に国内数か所の医療機関を訪問し、症例検討会の現地観察と薬剤師へのインタビュー調査を計画しており、委員の旅費として計上した。なお、現地調査に当たっては、アンケート調査の回答を参考にしながら、本小委員会委員の所属施設からの距離なども勘案し、可能な限り近隣の施設を対象に選定する等の工夫を行うことにより、実施施設数を増加させる計画である。現時点では、調査対象施設が未定であること、2024 年度が本小委員会の最終年度であることから、残金をすべて計上した。

注) 費目ごとに詳細な支出計画を記載すること。